

としま

2019年8月号 創刊号

ま ち
つながる地域づくり通信
生活支援コーディネーター通信



発行: 豊島区民社会福祉協議会 生活支援体制整備事業担当

〒170-0013 豊島区東池袋 1-39-2 豊島区役所東池袋分庁舎 3階電話 03-3981-4392



今年の4月から生活支援コーディネーターになりました松里佳奈子です。3月まではCSW(コミュニティソーシャルワーカー)として、何でも相談会や、制度の狭間でお困りの方への寄り添い支援、助け合いの仕組みづくりのお手伝いなどをしていました。

今後この取り組みに関することを、「つながる^{まち}地域づくり通信」でお知らせしていきたいと思います。地域の情報や区の情報などもあわせて発信します。ご意見、ご感想、情報提供などありましたら、ぜひ寄せていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

生活支援コーディネーターはどんなことをやっているの？

豊島区は人口29万人の大都市で、人口も増加し活気にあふれています。

一方で、日本一の過密都市であり、また、75歳以上の一人暮らし高齢者の割合が日本で一番多い(郡部等除く)という特徴もあります。

そんな豊島区で、住民同士がささえあい、年を重ねても誰もが安心して過ごせる地域づくりが求められています。生活支援コーディネーターは、地域の皆さんと協力しながら「ささえあいの仕組み」づくりをすすめる推進役です。

安心して生活できる地域って？

「地域包括ケアシステム」という考え方があります。

医療や介護が必要になれば、病院や介護サービスを利用します。

それとともに、地域でいつまでも元気で暮らすためには、家事や通いの場など生活支援サービスが必要です。公的サービスのほか、NPOや住民参加、住民主体の生活支援サービスを拡充することで、ささえあいの地域を作っていくことが必要とされています。

これは、介護保険の財源が厳しいという理由だけではありません。住民が地域づくりに主体的に参加することで地域につながりが生まれ、活動を通して社会的孤立を防ぎ、住みやすい地域につながるという大きな意味があります。

また、高齢者が社会参加することも重要です。

さえあいの地域ってどんなもの？ たとえば…

地域住民が中心になって、地域で気軽に集まれる場や介護予防の場がある

集まっておしゃべりをするのが楽しいわ



ひきこもりがちだったけどおいしいご飯を食べに来るようになり、今では友達もできたよ



昔お世話になった近所のお年寄りが少しでも楽しく過ごせるように、町会でサロンをつくった

自分ができることで社会参加・社会貢献できる

足は不自由だけど、編み物は得意。みんなで集まって作品を作って売り、子ども食堂に寄付しています



空き家になっている両親の家を地域の集まりに開放し、自分もボランティアで参加しています



お互い様の気持ちで、高齢者クラブで見守り活動に取り組んでいる



具体的にどんな仕事をするの？

豊島区から委託を受け、

①地域住民で構成する「地域のささえあいの仕組みづくり協議会[※]」で区全体の生活支援体制について検討し、取り組み、それを身近な地域に広めていきます

※民生・児童委員や高齢者クラブ、商店会、金融機関、区民ひろば、銭湯組合、学識経験者、介護事業者などの関係者からなる協議体。

②地域にある活動やサービスなどの把握と活用

今年度は、地域資源データベースシステム(Ayamu)で地域活動等の情報を整理し、運用を開始します

③その他

地域の困りごとを把握

活動の担い手の発掘、養成

活動する団体(社会福祉法人・企業・NPO・地域の団体など)のネットワークづくりの推進など

